

# 「幸福」を 真ん中におく まちづくり



京都府

## 京丹後市

2004年に6町が合併して誕生した「京丹後市」は、日本海に面した近畿最北端の都市である。豊かな自然環境と、天女の羽衣伝説などでも知られるように、わが国の草創期から発展してきた長い歴史と文化をもつこのまちは、高齢化率33・4%（2015年4月現在）。100歳以上の高齢者数も多い「健康大長寿のさと」でもある。長寿のふるさとがめざす「幸福のまちづくり」とは？

取材・執筆／加藤しのぶ 撮影／竹前朗

天橋立で知られる宮津市から京丹後市域を横断し、隣接する兵庫県豊岡市へと結ぶ京丹後鉄道宮豊線。車窓からの景色は、美しい海と山並みがゆるやかに眼前を通過して飽きさせない。人口5万8000人余、うち1万9500人弱が65歳以上、高齢化が進むまちにおける「幸福のまちづくり」についてお話をうかがった。

### 「利他の幸福」を 大切にすするまち

誰ひとり置き去りにしない——市制

施行当初よりその任に就く中山泰市長が地方創生の策定プランである「京丹後市まち・ひと・しごと創生」総合戦略アクションプランにも掲げるまちづくりの指針である。その柱のひとつに、「誰もが幸福をますます実感できる市民総幸福のまちづくり」がある。目指すのは「幸福」を行政運営の中心軸に据えたまちづくり——その羅針盤となる「幸福度指標」を設定し、それを用いて施策点検をするという考え方である。

京丹後市企画総務部長の木村嘉充よしみつによれば、最初は手探り状態から

スタートだったという。まずは学識経験者、商工会などの各種団体、行政担当者計10人で構成される「幸福のまちづくり研究会」を設置し、勉強会を開くことから始めた。

その過程で主観的なデータとして、2013年5〜6月、市民の幸福に関する意識を調査する「市民幸せ度アンケート調査」を実施した。アンケートは幸福度や満足度のほか、「幸福」を感じる重要事項、人生観など29項目にわたり、約1300人の回答を得た。

回答結果で注目されたのは、「他人の喜びや人のためになることを行いた

Chart 1 京丹後市の幸福度指標案(要約)

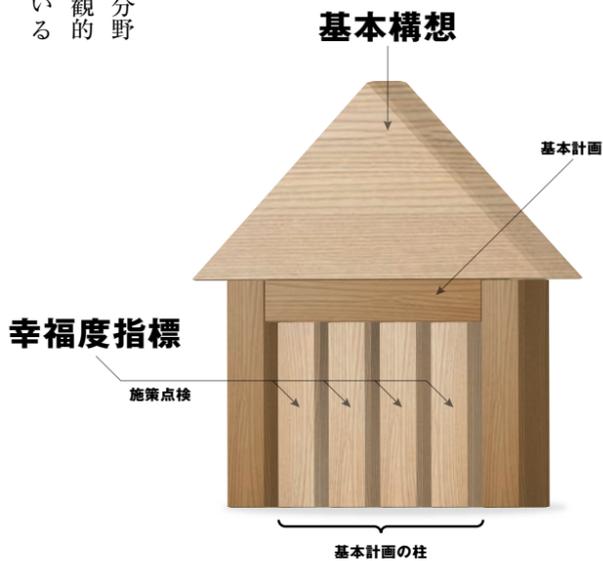
京丹後市ホームページより抜粋して作成

分野	小項目	主観的指標	客観的指標(抜粋)
経済	所得	生活に必要な所得・収入を得られていると感じている人の割合	●生活保護率 他
	産業	地域の経済が良いと感じている人の割合	●DI(景気動向指数) ●法人税割額 他
快適環境	自然環境	地域の自然が素晴らしく誇りを感じている人の割合	●水質環境基準の達成率(河川) 他
	生活環境	生活するうえでごみ・廃棄物などで不快さを感じている人の割合	●ごみの排出量(1人1日あたり) 他
	循環型社会	地球環境に配慮した生活をしていると感じている人の割合	●リサイクル率 他
健康長寿	健康	健康だと感じている人の割合	●要介護(支援)認定者割合(人口比) 他
	福祉	福祉が充実していると感じている人の割合	●地域福祉を担うボランティアの人数 他
	医療	医療が充実していると感じている人の割合	●医療施設数(人口比) 他
子育て・教育	子育て	子育て環境が整っていると感じている人の割合	●保育所入所待機児童数 他
	教育	教育が充実していると感じている人の割合	●大学進学率 他
安心・安全	生活空間	快適な生活空間で暮らしていると感じている人の割合	●道路舗装率 他
	消費	必要なモノやサービスを購入しやすいと感じている人の割合	●地域食糧自給率 他
	防犯・交通安全	犯罪の不安を感じている人の割合	●交番・派出所・駐在所数 他
	防災	災害に対する備えができていてと感じている人の割合	●自主防災組織人口カバー率 他
	定住	これからも京丹後市に住み続けたいと思う人の割合	●地元居住率 他
ふれあい (対人関係)	地域	地域社会とつながりを感じている人の割合	●NPO法人数(人口10万人比) 他
	人権・男女共同参画	個人として尊重され、互いに認め合っていると感じている人の割合	●審議会等への女性登用比率 他
	文化交流	文化・交流など余暇の過ごし方が充実していると感じている人の割合	●文化・芸術事業の開催数 他

Special Feature / Creating “Well-Being” Communities

さらに、2014年12月には京丹後市まちづくり基本条例の目標に「誰もが幸福をますます実感できる市民総幸福のまちづくり」を加える本条例の一部改正が議決。2015年3月に策定した第2次京丹後市総合計画に、幸福

### Chart 2 第2次京丹後市総合計画



幸福度指標は市政にどう反映されていくのか？

2015(平成27)年度から10年間にわたる第2次京丹後市総合計画では、幸福度指標を活用した施策点検により、幸福度を高める施策体系の再評価を行うことで、総合計画の立体化を図ることとしている。総合計画は京丹後市の基本構想を描くもので、最上位の計画となるもの。

度指標を活用した施策点検として指標を位置づけるとともに、「幸福」をまちづくりの理念や中心軸として市民が共有できる「市民総幸福のまちづくり条例」の制定を目指している(Chart 2)。

## 根っこになるのは「つながり」

アンケートに現われた「利他の幸福」などの結果に、「京丹後市には、やはり人と人が支え合う土壌がある」ことをあらためて確認したというのは、研究会のメンバーでもある社会福祉協議会(社協)事務局長・安田秀俊さん。

本市における社協の取り組みは、高齢者、障がい者、児童、生活困窮者など幅広い地域住民が対象。地域で実際の活動を担うのは、福祉委員、民生委員、ボランティアなどの市民。自身が高齢者という人も多い。若い世代にもっと関わってもらうことも重要だが、高齢化率が高い現状にあって、「高齢者の方々それぞれが生きがいをもってお互いを支え合うことが、もっと広がっていけばと思います。皆さんの『人の役に立ちたい』と思う気持ちをうまく引き出せるようなまちづくりができればと考えています」。

見守り活動、サロン活動など、取り組みは目新しいものではない。しかし、「幸福のまちづくり」の勉強会やアンケートを通して再認識したのは、「つ

## 住めば都——人があたたかいまち

「市民総幸福」とは、文字通り、全市民の幸福感が高まること。京丹後市では、誰ひとり置き去りにしないための場として「寄り添い支援総合サポートセンター」を設置、生活や就労の困難に直面している人々の問題を共に解決する拠点としている。

### Question

京丹後市で暮らして、  
どういうふうに  
幸せですか？



Miyamoto Shinji

農業体験市民



Imada Takaaki

農業体験市民

宮元信二さん

「人が真剣に話を聞いてくれる」

今田孝昭さん

「みんなが親切！」

売も、とても喜ばれた。自身も人に喜ばれる存在であるという実感は、参加者を力づけ、結果、セミナー修了後も、数人が引き続き農作業を続けている。

その場となっているのが、大宮町内の農家。敷地内の作業場を訪ねると、ふたりの男性が収穫した春菊の出荷作業を手際よく進めていた。

ひとりは長崎出身の宮元信二さん。成人後移り住んだ京丹後市内で働き、結婚したが、いろいろあつてうつ病を発症。数年間ひきこもっていたという宮元さんにとって、セミナーで思い出深いのは、西成での販売会。たくさん運んだ収穫品は瞬く間に売れた。「自分が作ったものを、相手が喜んで買ってくれたのが嬉しかった。冬は寒いけど、住めば都。ここは人があつたかくて、

自分が自然体でいられる」

地元出身の今田孝昭さんも長く無職だったひとり。初めての農作業は楽しく、今では自宅前の土地でも農作物を植えるように。「いずれ農業で身を立てたい」という。

センター主任支援員の藤村貴俊さんによれば、「幸福のまちづくり」構想が導入されたことで、活動は進めやすくなっているという。「幸福感の底上げ」「置き去りにしない」の言に共感して農地を提供してくれる人がいるように、「京丹後市にはそういったベスガちゃんとあると思います」。

## これからの挑戦

「市民総幸福のまちづくり条例」は現

在審議中である。「幸福のまちづくり」という言葉に対して懐疑的な市民の声もある。「幸福」と行政をどう結びつけるかが分かりづらい、ほかにすべきことがあるのに、実際の施策からの逃げ口上ではないか……。

「そうではない、ということをきちんと伝えていくことが必要」と木村さんと伝えているのは、「幸福」を軸にして、長年この土地に住んでいるからこそ気づかない「わがまのいいところ」を再確認し、共有することである。高齢者の多い保守的な土地柄にあって、周知はたやすくはないかもしれない。しかし安田さんや藤村さんの言葉通り、受容の土壌はある。どう伝えていくかは、これからの挑戦である。

安田秀俊さん 「自然が豊か。人と人とのつながりが深い」



Yasuda Hirosahi

京丹後市社会福祉協議会事務局長

藤村貴俊さん 「自分の居場所がある、と思えます」



Fujimura Takashi

寄り添い支援総合サポートセンター主任



木村嘉充さん。京丹後市役所企画総務部長、幸福のまちづくりの行政サイドの担当者。